※令和３年度以前入学生用

学校番号	2004

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校「新倫理　新訂版」　（清水書院）						
副教材等	アプローチ倫理資料ＰＬＵＳ２０２３　（東京法令出版） 共通テスト 実力トレーニング倫理２０２３　（啓隆社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本や世界の哲学・思想や宗教について学習する。普遍的な考え・民族固有の考え・時代性を踏まえた考え・社会関係を踏まえた考えなど、いろいろな方向性でもって理解を深めてほしい。また、青年期の特徴についてもとりあげる。
先人たちの知恵は、「いかに生きるべきか」という悩みや問いが、すべての人に共通する普遍的なものであることを教えてくれるだろう。そしてそのことは、さまざまな課題を抱えた現代の世界を生きる私たちを、何よりも勇気付けてくれるはずである。

２　学習の到達目標

偉大なる先人たちの生き様を学び、踏まえたうえで、社会や人々との関係において、人としてどうあるべきか、いかに生きるべきかを、他者への配慮を忘れず考え、かつ行動できる人間となれることを目標とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	先人の思想や生き方、自分自身がどのようにあるかについて関心を高め、自分や他者、社会との関わりから学び考える態度を身につけている。	これまで身についている知識や他者からの意見などを結びつけ、現代の倫理的諸課題について、自ら問いを立て、結論を導き出すことができる。	資料をメディアや文献等を通して収集し、必要な情報を取捨選択し、まとめることができているか。質疑等において的確な表現ができる。	先人の思想や現代社会の特質についての基礎・基本的な知識を理解し、自らの人生観・世界観を形作るための知識として身に付けている。
評価方法	・授業 ・ワーク ・授業やグループワークに取り組む態度	・ワーク ・レポート課題 ・発表 ・考査	・授業 ・ワーク	・授業 ・小テスト ・考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	第一編　現代に生きる自己の課題	第１章人間とは何か 第 2 章青年期の課題と自己形成 1　青年期の意義 2　自己の理解に向けて 3　豊かな自己実現のために	○ ○ ○ ○ 	 ○	 ○	○ ○ ○ 	a:　青年期の意義と課題に対する関心を高め、それを意欲的に探求し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。 b:　自らを見つめることにより課題を見出し、青年期の意義と課題を多面的・多角的に探求し、その過程や結果を適切に表現できている。 c:青年期に関する諸資料を資料集や種々のメディアを通して収集し、学習成果として適切に選択活用している。 d:青年期の不安を抱えながらも、自己確立には人生観・世界観の形成が必要であると理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。	・考査 ・小テスト ・ワーク ・発表

※令和３年度以前入学生用

	第二編　人間としての自覚と行き方	第１章人生における哲学 1神話から哲学へ 2自然哲学の誕生とソフィスト 3真の知への道―ソクラテス 4理想主義的なあり方―プラトン 5現実主義的なあり方―アリストテレス 6幸福をめぐる問い―ヘレニズム思想 第２章人生における宗教 第１節キリスト教―愛の宗教 1ユダヤ教 2イエスの思想 3世界宗教への展開 第 2 節イスラーム―啓示と戒律の宗教 第 3 節仏教―智慧と慈悲の宗教 1バラモン教 2仏陀の思想 3仏教のその後の展開 第３章人生の知恵 1孔子と儒家の思想 2儒教の展開 3道家の思想 第４章人生における芸術	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○ 	 ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:人生における哲学・宗教などのもつ意義に対する関心を高め、自らおよび人間存在の価値にかかわる課題を意欲的に探求し、人間としてのあり方・生きかたについて考えようとしている。 b:自らおよび人間存在や価値にかかわる基本的な課題を見出し、種々の源流思想の考え方を手がかりとして多面的・多角的に考察し探求するとともに、人間としてのあり方・生き方について広い視野にたって主体的かつ公正に判断している。また、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:源流思想に関して、図書館・博物館などを積極的に活用し学習に益する情報を適切に選択して利用している。 d:源流思想について、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることに気づき、自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。	・考査 ・小テスト ・ワーク

※令和３年度以前入学生用

二学期	第三編　現代社会と倫理	第１章現代の倫理的課題	○	○		○	a:現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に追求し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。 b:ルネサンス以後現代に至る西洋思想の形成と展開を手がかりとして多面的・多角的に考察し、倫理的な見方や考え方を身に付け、広い視野にたって主体的かつ公正に判断している。また、それらを探求した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:西洋思想形成過程探求に関して資料集のほかに図書館・博物館・美術館などで資料を探索し、先哲の考え方や生き方を自らの思索を深めるために活用している。 d:西洋思想の形成と展開について、合理的精神・民主社会の倫理・科学技術文明のあり方・人間の尊厳の自覚などについて、自己の生き方とつなげて理解し、社会参加や自己実現とかかわりながら、人格形成に生かす知識として身に付けている。	・考査 ・小テスト ・ワーク
		第２章現代に生きる人間の倫理	○					
		第１節人間の尊厳	○					
		1自己肯定の精神	○					
		2宗教観の転換				○		
		3人間の偉大と限界		○				
		第 2 節自然や科学技術と人間のかかわり	○					
		1自然への目と科学的なものの見方	○					
		2事実と経験の尊重		○		○		
		3理性の光		○		○		
		第 3 節民主社会における人間のあり方	○					
		1民主社会の原理		○		○		
		2人権思想の展開		○				
		第４節自己実現と幸福	○					
		1人格の尊重と自由	○					
		2自己実現と自由			○			
		3幸福と功利				○		
		4創造的知性と幸福				○		
		第５節個人と社会のかかわり	○					
		1人間性の回復を求めて―社会主義			○			
		2人間存在の地平―実存主義		○		○		
		3他者の尊重		○		○		
		4社会参加と他社への奉仕						
		第６節現代における理性の問題	○					
		1生命への畏敬						
		2理性主義の見直し	○					
		3言語論的転回				○		
		4科学観の転換	○					

※令和３年度以前入学生用

	第四編　国際社会に生きる日本人の自覚	第 1 章日本の風土と外来思想の受容 第 1 節日本の風土と伝統 1日本の風土と人々の生活 2古代の人々の考え方 第 2 節仏教の伝来と隆盛 1仏教の移入―古代仏教の思想 2仏教の土着化―鎌倉仏教の思想 第 3 節儒教の日本化 1儒教の伝来と朱子学 2陽明学 3古学 第 4 節日本文化と国学 1古典美の再発見 2国学 第 5 節近世庶民の思想 1都市庶民の思想 2農民の思想 第 6 節西洋金外思想の受容 1西洋文明との接触 2啓蒙思想と民権論 3キリスト教の受容 4国家主義の高まりと社会主義 5近代的自我の成立 6近代日本哲学の成立 7近代日本の思想傾向への反省 第 2 章現代の日本と日本人としての自覚	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:日本の風土や伝統、外来思想の受容に対する関心を高め、日本人にみられる人間観・自然観・宗教観などの特質について意欲的に探求し、国際社会に生きる主体性のある日本人としてのあり方生き方について考えようとしている。 b:日本の風土や伝統について考察し、仏教や儒教・西洋思想などの外来思想の受容と吸収について学習しながら、日本人的特質について多面的・多角的に考察し、国際社会に生きる主体性を持った日本人としてのあり方・行き方について探求すると共に、広い視野にたって主体的かつ公正に判断している。また、それらの探求の過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:資料集を活用するだけではなく、図書館・博物館などで積極的に資料を探索し、学習に役立つ情報を主体的かつ適切に選択活用している。 d:日本人にみられる人間観・自然観・宗教観などの特質を、生きる主体としての自己確立の課題と結びつけて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	・考査 ・小テスト ・ワーク ・レポート課題

※令和３年度以前入学生用

	第五編　現代の諸課題と倫理	第 1 章生命と倫理 第 2 章環境と倫理 第 3 章現代の家族とその課題 第 4 章地域社会の変容と共生 第 5 章情報社会とその課題 第 6 章グローバル化の時代と倫理 第 7 章人類の福祉と国際平和	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:現代の諸現象における倫理的課題に対して、自らに対する課題として捉え、意欲的に考えを深めようとしている。 b:自然と人間との関わり（生命倫理・環境倫理）、社会生活と自己との関わり（家族・社会、情報化）、国際社会と自己との関わり（異文化理解・国際平和）などの視点から、問題意識を多面的・多角的に考察し、自らのあり方・生き方にそれらを引き付けて広い視野にたって主体的かつ公正に判断している。また、それらを探求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:種々のメディアなどを積極的に活用し、益する情報を主体的かつ適切に選択して活用している。 d:これらの諸課題を、自らの課題として理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。	・考査 ・小テスト ・ワーク ・発表

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。